

『プラスのストローク(短所は長所?)』

○活動のねらい

自他を肯定的な視点で見つめる大切さに気付く

○所要時間 35分

○トレーニングを受ける人数 3名

○展開

活動内容 《 》は領域、【 】はスキル、『 』は活動名	時間 (分)	トレーニング上の留意点 フィードバックの視点
1 アイスブレイキング 例 ・運動会後の打ち上げの話 ・今日の給食について	5	・場の雰囲気をやや和やかにする。
2 《自己理解・他者理解》 【リフレーミング】 『プラスのストローク(短所は長所?)』 ① あらかじめ職員一人一人に書いてもらってあるカード 『自分で感じている短所』をトレーナーのものも含め、 一人4枚ずつカードリフレーミングをする。 ア:個人で イ:読み合わせ確認	15	① ・できるだけばらばらになるようにする。 ・自分のカードをひいても同様に行う。 ・かけるところだけでよいことを伝える。 ・書ける箇所だけでよいことを伝える。 ・トレーナーはすべて賞賛する。
②エクササイズのシェアリング	5	マイナス面も見方によって、プラス面であることに気付く。
3 本トレーニングから学んだことの確認	5	・プラスのストロークの大切さに気付く。
パーソナルプランニング	5	※パーソナルプランニング例 ・同僚の性格を認める言葉かけをする ・職員の状況や様子に応じた言葉かけをする

パーソナルプランニング後の職員へのかかわりの具体例

サポーターが行ったこと	サポーターが感じたことやサポートを受けた職員の様子
副担任が授業後、生徒の態度に腹を立てていた ので、「先生はそれだけ熱心なんですね」と言葉かけをした	副担任は「そうですか?」と言いつつも穏やかな表情になった